

発行所 **日本基督教団**
 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 一時移転先 169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18
 電話 03 (3202) 0546、FAX 03 (3207) 3918
 URL <http://uccj.org>

発行人 長崎哲夫
 編集主筆 渡邊 彦
 印刷所 株式会社きかんし



第39総会期第5回常議員
会は、2月15・16両日、寛
士見町教会会議室で30人全
員が出席して開催された。
保科隆常議員による開会礼
拝後、議事に入り、沖繩教
区を除く16教区の議長、議
長代理が陪席した。

総幹事報告で、長崎哲夫
総幹事は、前回常議員会で
浮上した教会への社会保険

総幹事報告を巡る議論の中で、マイナス金利の教団財政への影響を問われた野田安晴年金局理事長は、「マイナス金利は個人預金には適用されないが、法人は検討対象となっている。年金局が所有する7億円の国債は、現在1%の利子が付いており、700万円の減収となる。定期預金の委託手

数料と合わせ、来年以降800～900万円の減収が予想される。昨年、外債投資枠を増やしたが、為替リスクがあるので慎重に運営して行きたい」と答えた。

また、報告中の国際青年会議についての質問に対し、秋山徹実行委員長は、「17年3月28日～31日、京都・関西セミナーハウスで開催する教団主催の会議で、14年3月の仙台での国際会議の精神・課題を継続し次の世代への継承を図る集大成の会議」と説明した。

救援対策本部報告では、10億円の東日本大震災国内募金は、15年3月末、終了宣言を出したが、救援対策本部は17年3月まで活動を続けるので、募金口座は継

続している。1月末現在の募金は、10億1995万6336円で、昨年4月以来、1467万円増となった。エマオ石巻は、教団専従者が3月末退職するが、新任者を求めて活動を継続することが報告された。

宗教改革500周年記念行事について、岡村恒準備委員会委員長は、「17年8月

9日・11日、軽井沢・恵みシャレで全国中高生大会を開催する。全国青年大会は、日時未定だが、青山学院で、500周年記念礼拝は17年6月22日開催すると報告した。伝道推進室報告で、岩田昌路書記は「推進室が専任幹事を置く」とを要望した。

(永井清陽報)

日本キリスト教会館は2月末日で耐震工事の終了に伴い、教団三局は一時移転先から、下記の日程で日本キリスト教会館へ戻ります。

2016年3月11日(金)～3月13日(日)

- ◆ 11 日 (金) は通常業務は出来ません。
◆ 14 日 (月) からは通常業務です。
予めご了承ください。郵便物等は 3 月
14 日 (月) 以降、下記へお送りくださ
い。電話・FAX の変更はありません。

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館
日本基督教団 総幹事 長崎哲夫

1037万4000円戻
てくるが、4月には196
0万2617円の不足とな
ることが予想される状況で
ある。そのための手当として、
宣教研究第一資金を
廃止し、経常会計に繰り入
れることを常議員会に再提
案することが承認されたこ
とが報告された。

改修後の会館のどの部屋にどのような団体が入居するのかが説明された。なお、現時点で2室が空室であることもあわせて説明された。この説明に対し、入居予定の一団体について問い合わせがあったが、信頼できる団体であるとの返答であった。

の貸付は会館管理組合で処理をしている事柄である」と資料を明示しつつ説明がされた。両報告は賛成多数で承認された。

なお、一時移転関係費の不足分については、その後「宣教研究第一資金廃止に関する件」ならびに「2015年度教団歳入歳出予算

廃止となつた宣教研究第一資金を充當させるようなことも考えたかどうか、等の意見が出されたが、廃止となつた宣教研究第一資金の一部、一時移転関係費の不足分に充てられることとなつた。

(小林信人報)

常議員会、財務に関する
こととして、主に、「宣教研
究第一資金廃止に関する
件」、「2015年度第3次
補正予算案」が協議された。
宣教研究第一資金廃止議
案では、本資金を廃止し、
経常会計に繰り入れ、会館
耐震・改修工事費用および、
一時移転関係費用の支払い
に充てることが承認され
た。

提案理由として、資金の
経緯が述べられた。信徒の
指定献金によって設けられ
た本資金は、教団の基本的

データ作成、教団資料集」「聖書注解書」の発行等によって運用されて来たが、注解書刊行について生じた諸課題に解決の見通しが立ち、宣教委員会としては本資金の運用は行わないこととしたことが35総会宣教委員会報告に記されていた。議案に対し、「一部を伝道推進室のために用いてはどうか」との意見があった。雲然俊美書記は、「三役は工事費に用いることが、現在の教団の宣教に重要なことと考えた」と告げ、愛澤

豊重予算決算委員長は、「今、常議員会で提案されている、伝道幹事任が通つた場合の person 費、活動費等を考えると、全額繰り入れるのが良い」と述べた。

議案について、「少しずつ用いるより、教団の重要なことに用いる方が、献金者の意向に沿う」、「会館改修は教団の宣教の基盤を整えるための費用」等、賛成意見が述べられた。

「第3次補正予算」では、主に会館移転再入居費用と出版局への貸付金が提案さ

れた。事業活動収支の部では、収入において、宣教研
究第一資金の廃止により、
2819万6521円繰
入、支出において、会館事
務局所有部分の内装工事に
よる1897万5710円
増、再入居転移費により、
233万5900円の増
等。投資活動収支の部では
収入において、積立預金取
崩収入で、会館内装工事
費、電気増設追加工事費の
ため2452万6000円
増、支出において、「収益事
業出資金」で、出版局再入

巴）、什器備品購入により、460万8390円増、出版局内装工事のための700万円の貸付等。

議案に対して、「宣教研究第一資金廃止による繰り入れが、当初の見積もりより増えたことをふまえ、出版局の貸付を減額することには出来ないのか」との質問があった。愛澤淳算決算委員長は、差額は剰余金として次年度に繰り入れるのが基本としながら、増加する人件費、事務費の手当てをつけるための必要性を述べた。

竹澤知代志出版局長は、再入居に当たって、什器の更新は諦め、内装も変えなないことを告げ、経常的な経営において黒字化することが使命であり、それが困難になる負担は減らしたい」と述べた。長崎岳太総幹事は、700万の貸付については、次月の常任理事会で改めて予算決算委員会に依頼の文書を出すことになっており、決まった上での話ではない」と述べた。賛成多数で承認された。

（嶋田恵悟報）

第39総会期第5回常議員会

将来構想検討委報告で論議

教団将来構想検討委員会の佐々木美知夫委員長は、8回に及んだ委員会を踏まえた答申中間報告を行った。佐々木委員長は、3頁にわたる中間報告で、「信徒の高齢化、若年層減少、伝道不振、財政の逼迫が更に深刻化する状況がある」とし、「教団が一定の方向性を見出し、新しい局面を描き出せる態勢を取ることが必要」との答申の基本的姿勢を明らかにした。

中間報告は、教団の現状が、「現住陪餐会員20名以下の教会・伝道所は535で、教団全体の31・2％。教区別に見ると、55・6％を筆頭に9教区で著しい」として、教区名を列挙し、「信徒の高齢化は、伝道と教会形成に大きな影響を及ぼす」としている。

報告は更に、「過去10年間で教団の現住陪餐会員は約1万2千人減、礼拝出席6千人減、経常収入17億円減。1年の平均受洗者数1369名は、それ以前10年間の平均1871名に比べ502名減」と警鐘を鳴らす数字が続いている。佐々木委員長は、「現状を詳しく見ると、危機意識を持たざるを得ない。将来に向けて、グランドデザインを描くことが必要で、このまま推移すると、現在の教師の10～15％が困難な状況に陥る」と述べた。

この中間報告に対し、様々な意見、質問が相次いだ。「方策ばかり出ている

が、新たな教会論を模索しているのか」「宮本義弘常議員。佐々木委員長は「委員会はその目指してはいない。一つでも事を前に進めるための構想である」と答えた。

「外国の教会とどう連携するのか」という視点が無い。世界中の他教団とどう関わるのか」「秋山徹関東教区議長。

「確かに、20名以下の教会が半数だが、『小さな町にも教団の教会があり、群れがある』ことを恵みととらえている。苦闘している教区に、新たに変われというのは乱暴だ」「小西望東北教区議長。

「確かに、20名以下の教会が半数だが、『小さな町にも教団の教会があり、群れがある』ことを恵みととらえている。苦闘している教区に、新たに変われというのは乱暴だ」「小西望東北教区議長。

世界宣教委員会

ベルギー、アメリカ宣教師派遣決定

今総会期の第四回世界宣教委員会が1月29日に行われた。

会議の中で、ブリュッセル日本語プロテスタント教会後任牧師に関する件で、候補者の川上寧教師・川上真咲教師の面接を行い、両牧師を派遣することが可決された。また、アメリカ・パイン合同メソジスト教会の後任牧師の件では河合望教師の面接を行い、同教師を派遣することが可決された。

在外教師の教団年金に関するアンケート調査を行った結果を受けてこれを検討した。在外教師は教団年金事情によって違いがあり、これまで教団としてもしっかりと把握できていなかった。

信仰職制委員会

礼拝指針について発題

2月8日・9日、第4回信仰職制委員会を、教団会書記、道家紀一幹事である藤盛委員長のメッセージと祈りで委員会は始まった。

村博、武田真治、宮地健一、藤盛勇紀委員長、小池磨理子、須田拓、中村公一、田

大学准教授から「教憲・教規、礼拝指針、礼拝書」に関する発題をしてもらった。その発題で、礼拝式文のプロテスタントでの位置

また、諮問を長崎哲夫総

「使命を強調しながら、教勢を最重要視している。使命は教勢を超えたものではないのか」「小畑太作西中国議長。

「将来構想委員会だから、いろいろな構想があってもいいが、将来がないという展望は、委員会の名にそぐわないのではないか」「長山信夫常議員。

審議は、夕食後も続開して、1日目議事の大半の時間を費やす長時間の論議となったが、その一つの理由が、佐々木委員長の報告終了を待ち兼ねたように手を挙げた松井睦宣教研究所委員長らの「昨年12月、委員会5人全員が、石橋秀雄議長

の反対を押し切って、沖縄を訪問したのは何故か」と

いう質問だった。佐々木委員長は「委員会として訪問した訳ではない」と答えたが、議場が納得せず、委員の一人、岡本知之常議員は「教団にとって沖縄教区との関係は重要なので、沖縄を訪問したいとかねてから思っていた」と述べ、石橋議長は「委員全員が行くのは影響が大き



選考について意見を述べる北常議員

総幹事選考、従来通りの手続きにて

2日目、議事日程の最後

に挙げられたのは「総幹事選考委員会設置」(提案者:北紀吉常議員)だった。次

期総幹事選考のため常議員会のもとに委員会設置を求める提案であった。

提案に対し「関連議案として設置案も上程して議論すべき」「議事日程どおり取

った。教規50条②の規定を尊重して、慣例どおり現議長による推薦、常議員会承認、教団総会にて選任決定

することを先議してもらいたい」と述べた。

提案に対し「関連議案として設置案も上程して議論すべき」「議事日程どおり取

成で先議と決まった。

議長案に対して北常議員は「選考委員会には信徒委員も加わっており広い意見を集め、選考の透明性が確保できる。厳しい時代のため最善の人選が可能となる。委員数が偶数なのは全会一致による選考を考えてのことである」と慣例による選考に反対した。知恵を集め相談し人選することが次期議長、教団のためになる(藤掛順一常議員)、「議

長推薦には常議員会で意見を述べるができる」「岡田義信常議員、「慣例に賛成するが規則との整合性を重んじてもらいたい」「長山信夫常議員、「慣例を新しく変えることのリスクがある」と高橋和人常議員等意見が述べられた。

無記名投票による採決となり、議長は採決に加わらず、29名中賛成18票、反対10票、白票1票で、慣例ど

た面がある。年金のことは教団としても把握しておく必要があることが確認された。

また、これまで在外教師の活動報告が教団総会でなされることはなかったが、近年、世界宣教への関心が薄れて来ていることに鑑みて、在外教師の動きを教団

全体で覚えることが必要ではないかと意見が出された。そのために本年10月に開催される教団総会に在外教師を1人招いて、活動報告を受ける時間を取ってもらうように常議員会に提案する案が可決された。

(吉岡光人報)

また、これまで在外教師の活動報告が教団総会でなされることはなかったが、近年、世界宣教への関心が薄れて来ていることに鑑みて、在外教師の動きを教団

全体で覚えることが必要ではないかと意見が出された。そのために本年10月に開催される教団総会に在外教師を1人招いて、活動報告を受ける時間を取ってもらうように常議員会に提案する案が可決された。

(吉岡光人報)

また、これまで在外教師の活動報告が教団総会でなされることはなかったが、近年、世界宣教への関心が薄れて来ていることに鑑みて、在外教師の動きを教団

全体で覚えることが必要ではないかと意見が出された。そのために本年10月に開催される教団総会に在外教師を1人招いて、活動報告を受ける時間を取ってもらうように常議員会に提案する案が可決された。

(吉岡光人報)

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

また、諮問を長崎哲夫総

▼宣教研究所委員会▲

「陪餐問題資料ガイド」集中検討

第4回委員会が、2月1日、教団事務局会議室にて、委員7名のうち6名の出席によって開催された。

松井睦委員長による聖書朗読、祈祷の後、委員長より、常議員会からの委嘱を受け、常議員会に寄せられた「宣教基礎理論第2草案」に関する諸意見の集約作業を、首都圏在住の委員

終了後、追加の意見が1件寄せられ、委員長決裁により併せて7件の取り纏めを行い、作業の結果は報告書にまとめ、取り扱いは、委員長一任とした。

▼予算決算委員会▲

第3次補正予算案を決定

宣教研究所編『陪餐問題に関する資料ガイド』(1991年)についての諸意見の整頓に関する研究プロジェクトについては、Churches Respond to BEの記述を基に、各教会の基本的な立場を確認することを主とする。取り上げる諸教会については、教団と歴史的に関係の深い教派に

第4回予算決算委員会が、1月29日に全員出席のもとで行われた。

予算決算委員会では日本キリスト教会館耐震補強工事の教団所有分の工事に係る費用について、これまで検討を重ね、費用の捻出について進められてきたところであるが、

ね、費用の捻出について進められてきたところであるが、長崎哲夫総幹事より以下の報告がなされた。

「日本キリスト教会館間題に関して、2012年以来予算決算委員会に取り扱いを

お願いしてきたが、工事はこれまで順調に進み、本工事は終了し、クリーニングを経て、内装工事を進めている。建物が一970年頃のもので近年の電氣化に対応しておらず、電力の増設

が不可欠であり、この工事を第3次補正予算として提案させていただきたい。

2月19日に引き渡し予定で、引越を経て3月14日から早稲田の事務所にて業務開始の予定である。それを決めた。

の前後1週間は各委員会開催の自粛を求めている。今回の主な議題は2015年度第3次補正予算であった。会館問題特別委員会が内装工事費の総額について正式に決定したことを受けて、教団の所有部分の内装工事に関する諸々の工費支出について検討を行い、常議員会に提出する案を決めた。

その他の審議事項としては毎年開催している全国財務委員長会議の日程を、教団総会の日程を考慮して9月12日・13日とすることを承認した。

(長谷川洋介報)

▼教育委員会▲

教区教育担当者会、教会教育セミナー開催



ペンテコステの祝いを全員で体験

2月2日・3日に高知東教会と高知教会を会場にして、第4回教育委員会を開催した。出席者は委員5名と事務局2名。

事務局報告、「教師の友」編集委員会報告、ユースミッション日独2015報告を受けた。8月13日・20日に行う台湾ユースミッション2016について報告と協議を行った。台湾から7名の青年が日本に来る。日本からも7名の青年の参加者を募集する。求道者も可だが牧師の推薦が必要。各教区と台湾基督長老教会から日本に来ていたる宣教師には案内する。

委員会の直前に行われた教区教育担当者会と教会教育セミナーの反省をした。教会教育セミナーには子どもを含めて49名の参加があった。

宣教委員会報告、常議員会報告を受けた。宗教改革500周年記念事業としての中生大会、青年大会の第1回実行委員会が1月27日に行われ、その報告を受けた。中生大会は201

7年8月9日・11日に軽井沢恵みシャレーで行う。青年大会は2018年春に青山学院で行う予定。

キリスト教教育主事認定試験について今回は受験希望者がなかったため実施しない。教会学校応援セツトについて応募のあったもの

を審査し承認した。3月初めに発送する。教団教育委員で手分けして教会学校応援セツトを送付する教会を訪問する。教区青年担当者は9月5日・6日に大阪の東梅田教会で行う予定である。

2016年度教団教育委員会予算を審議して承認した。日本キリスト教団教育委員会フェイスブックを立ち上げた。まず教団教育委員会関係のニュースを載せる。幼稚園融資の件で5月の教団新報に公告を載せる。

《教区教育担当者会／教会教育セミナー報告》

2月1日・2日に高知教会を会場にして、教団教育委員会主催の教区教育担当者会と教会教育セミナーを行った。

1日目、午後2時よりまず教区教育担当者会を行った。各教区(東京教区は各支区)より14名の教育担当者

と教団教育委員5名、事務局2名の参加があった。

開会礼拝の後、自己紹介とオリエンテーションをし、資料に基づき各教区の教育活動について1人10分程度の報告を受け、意見交換をした。CS子ども大会、中高生キャンプ、CS教師研修会などの活動の他に合同運動会をしている支区もあり、それぞれの教区や支区で工夫して活動がなされて

いた。

午後7時から高知分区分のCS教師にも参加を呼び掛けて、教会教育セミナーを行った。講師は寛伸子さん(教団教育委員、茨木東教会キリスト教教育主事)。

「ペンテコステを楽しく祝おう」というテーマで、式文に基づき、ペンテコステ全科合同礼拝を、全員参加で行った。大人が子どもになったつもりで役割分担して、途中の讃美歌のところ

て早々に研究員会を召集し、広く教団全体から、青年伝道に関わっている教師・信徒を対象として、意見の聴取を行いつつ、研究成果をまとめるという見通しを確立した。野村稔委員の祈祷をもって閉会した。

(林 牧人報)

工事内容は以下である。

①三和エフエムデザインによる移転再入居工事費、②佐藤秀による1階電力増設盤工事費。③三和エフエムデザインによる北側大議室床タイルカーペット張り替え工事費。以上3つの工事費は総額で2794万164円となり補正予算を組むことを承認した。また、この工事の関連で出版局からの要望書について検討を行った。

その他の審議事項としては毎年開催している全国財務委員長会議の日程を、教団総会の日程を考慮して9月12日・13日とすることを承認した。

(長谷川洋介報)

愛媛県生まれ。58年日本聖書神学校卒業、同年より城南、保内、室戸教会を牧会し、90年に隠退。遺族は娘・佐々木恵子さん。

事務局報

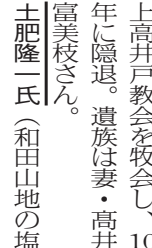
教師異動



川崎順一さん(隠退教師)

16年1月13日逝去、81歳。群馬県生まれ。58年同志社大学大学院卒業、同年より別府野口、東京都民教会を経て日本基督教団に務め、上高井戸教会を牧会し、10年に隠退。遺族は妻・高井富美枝さん。

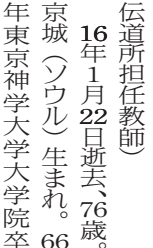
土肥隆一氏(和田山地の塩伝道所担任教師)



高井 清氏(隠退教師)

16年1月22日逝去、76歳。京城(ソウル)生まれ。66年東京神学大学大学院卒業、77年よりクリスチャンユースセンター、恵泉寮に務め、和田山地の塩伝道所を牧会。遺族は妻・土肥みゆきさん。

高橋公彦氏(隠退教師)



高橋公彦氏(隠退教師)

16年1月30日逝去、91歳。

お詫び・訂正



高橋公彦氏(隠退教師)

16年1月30日逝去、91歳。

お詫び・訂正

「教団新報」は、今号を4836・37合併号とし、4838号は、4月9日発行とします。

総幹事 長崎哲夫



上：新会堂西側正面

左：旧会堂での祝福

セールの電話などで「かみまち教会さまですか」と、時々読み間違われます。その都度丁寧に「うわまちと読みます」と応答します。伝道の一環のつもりです。上町と書いて「うわまち」とは、なかなか読んでもらえません。印刷物には仮名を振っています。私はみふみ認定ことも園の保護者として上町教会を知り、信仰に

導かれ、教団コースにより補教師となり、不思議な導きにより、妻と共に母教会に2004年4月に赴任いたしました。母教会に赴任するというのは、それまで信徒として見てきた教会を、今度は教師として見ることで、す。何も変わらないはずの教会自体が全く異なった姿に見える気がして、戸惑いを感じたことを思い出します。

就任当初から現在にいたるまで、教会ビジョンとして変わらずに掲げてきたことは、「祈りと賛美に満たされる教会」「地域に開かれた教会」の2点です。 「教会」と「教会学校」同じ敷地内の「みふみ認定ことも園」の3つが良い関係をもってこそ、伝道の土台ができると思っています。教会員に限らず、園児、保護者など多様性のある人たちを巻きこむと、様々な工夫をしました。宇都宮のような地方都市では、年齢や居住地域によって、教会に集うために必要なことが異なります。高齢の兄弟、教会への交通手段

伝道報告

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

ルカによる福音書第10章17節～20節

100年後も教会がここに立ち続けるように

宇都宮上町教会牧師 澤田 武

段の悪い方が希望すれば、役員が送迎奉仕をしてくれます。信徒の高齢化に伴う課題として、取り組んでいる一つです。 教会学校では、小中学校の夏休み中、教会学校教師が夏休みの宿題を見てあげる宿題会を行っています。これは子どもたちにも保護者の方々にも評判が良く、普段教会学校に來ない子どもたちも誘いやすい行事です。子どもの聖書輪読会も催します。内容を全て理解することはできないかもしれませんが子どもの声で聴く御言葉に心を打たれます。 もう5年になろうとしている東日本大震災は、地域の中で教会がどのような存在となることができのかを、もう一度真剣に考え直す機会となりました。被災後、教団、教区、各教会の方々の熱い祈りと、尊い献金によって2015年7月に新会堂を献堂する御恵みをいただきました。 新会堂は建物自体の耐震性はもとより、地域の災害対応の避難施設の働きの一部を担える建物を目指し、災害時緊急に必要な、食料、毛布、寝袋等の備蓄スペースを作りました。地域に呼びかけて、災害時の教会と地域のあり方も順次検討したいと思えます。 東日本大震災の記憶を風化させないために、献堂の思いを後世に伝えようと、献堂記念プレートを新会堂内に設置いたしました。「深い感謝とともに、100年後もこの教会がここに立ち続け神と人にと仕え神様の愛が豊かに現れるところとなりますようにと願っています」と記されています。



第30回外キ協全国協議会
主題●外キ協30年の歩みを共有し
宣教課題を定立しよう

「第30回外キ協全国協議会」が1月28日～29日にかけて在日本韓国YMCAを会場にして開催された。外キ協」とは「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」の略で、この法案の制定に向けて全国各地で活動している各外キ連の代表者と加盟教派・団体の代表者約40名の参加があった。教団関係者としては、長崎哲夫総幹事をはじめとして、外キ協事務局局長秋葉正二氏、NCC議長小橋孝一氏、NCC総幹事網中彰子氏など8名の参加があった。協議会の流れは、開会礼拝、基調提案、全体協議と続き、今回の主題である「外キ協30年の歩みを共有し、宣教課題を定立しよう」を基本線として、2015年活動報告並びに2016年活動計画について話された。活動計画の主な課題は、「外国人基本法の制定にむけて」の署名活動の展開と6月12日を各教会での祈りの日としてもらうことをはじめとして、「ヘイト・スピーチに抗し、人種差別撤廃法案の実現」を課題とすること、2012年入管法の是正と法改正を求めること、東日本大震災で被災した外国人を支援することなどを主な課題とすることが協議された。

また、協議の合間に特別講演やシンポジウムが開催されたが、特に李済一氏(在日韓国基督教教会館名誉館長)による「日本のキリスト教界と外キ協の30年」の講演では、30年間の全国集会の報告書の厚さは18cmにも及び、その間、第1回からの外キ協の活動精神に一貫性があることが紹介された。特に、外キ協の活動の歴史にあたる指紋捺捺拒否の運動は、1981年に二人の高校生姉妹が指紋捺捺を拒否したこと大いに刺激と触発を受け、それ以後10年以上に亘る指紋捺捺撤廃までの運動の原動力となったことが伝えられた。

(宮本義弘報)

第30回外キ協全国協議会



水田真木子さん

主に用いていただく喜びの中で



弘前市出身。遺愛学院女子中学高等学校教師。函館教会員。

小学生だった水田真木子さんを、日曜学校に導いたのは、熱心な信仰者であった祖母タキさんであった。弘前教会や弘前学院の宣教師館を建てた明治の棟梁、校庭駒五郎はタキさんの義父で水田さんの曾祖父にあたる。多くの青年が活発に集まっていた弘前教会で受洗に導かれたきっかけは、高校2年夏に参加した奥羽教区のワークキャンプだった。一緒に活動していた同世代の仲間から教団の正教師が3人誕生している。ピアノを習っていた水田さんは、周囲から奨められるままに、讃美歌講習会に参加し、そこでパイオルガンに出会った。東京神学大学のチャペルで受講生たちが弾くオルガンの音に、な

ぜか涙があふれて止まらなかった。その場で、講師の先生に「オルガンを習いたい」と申し出た高校生に、「ぼくの所へ來たら教えてあげる」と驚くべき答えが。こうして、月1回土曜日、学校の授業が終わると、特急に飛び乗って弘前から仙台に通い、母の友人宅に泊まってレッスンを受ける生活が始まった。大学でオルガンを専攻する一方、奏樂をさせてもらった仙台東一番丁教会では、ドイツで教会音楽の国家資格を取得された先生から毎週、手取り足取り、讃美歌と奏樂のレッスンを受けた。「牧師は言葉で語り、奏樂者は音楽で語る」と、礼拝奏樂者の基本をたたきこまれた。大学や教会関係者に導かれる

ままに、函館の遺愛学院に赴任すると、半年後に礼拝のためのオルガンが設置されることになった。また、函館教会にはそれ以前からオルガンがあり、自分の思いをはるかに超えて、神さまが、礼拝奏樂の御用に招いていてくださったということがわかった。

学校と教会では、出席者は違いうが、讃美歌をおとして礼拝者の魂の奥深いところに、神さまが触れてくださる事実がある。卒業生や教会員のちょっとした言葉でそれを知られるとき、とてもうれしくなる、と水田さんは語る。水田さんのオルガンにはメッセージがあって、とても落ち着くと教会員も深い信頼を寄せる。

私の仕える静岡教会も毎週水曜日の昼後に聖書研究祈禱会を行っている。多くの教会と同じように聖書の御言に聴き、その後グループに分かれて祈る。そこで与えられた御言の恵みに共に立ち、共に祈ることは教会にとって大きな喜びとなる。信仰の養いであり、また使命を自覚する時ともなる。しかしその喜びと恵みを積み重ねる業がどれだけ為されているのか自問している。その時々恵みに与るだけでなく、恵みに恵みを重ね、喜びに喜びを重ねて教会が信仰を強められる、その経験が大切

だと考えるからである。祈りを重ね、聖書の御言に親しむのは私たちにとって日常のことであり、分かりやすい。しかしそこで強められた肢々と教会が更に将来に向かって成長している姿をしっかりとするのである。教会はこの時だけに立っていない。将来を担う人々、将来の肢々に信仰内容とその恵みを手渡していくのである。今一方で新会堂建築を祈りながら、一方で説教や聖書研究の内容を文書にしている。教会の年輪、御言の恵みの年輪を感謝しながら。

(教団総会副議長 佐々木美知夫)

御言の恵みを重ねて